仙台市科学館
蒲生調査レポート　速報版

No.323

2022.9.10

〒981-0903　仙台市青葉区台原森林公園4番1号
仙台市科学館　事業係
TEL:022-276-2201　FAX:022-276-2204
http://www.kagakukan.sendai-c.ed.jp/

底質が変わることによるカニの分布の変化

■隆起による底質の変化とそれによるカニの分布の変化

今回の調査は気温が高く，多くのカニの活発な活動を見ることができた。

七北田川河口左岸（Fig.1囲み）に以前は砂地，固めの泥地，柔らかい泥地があり，コメツキガニ，チゴガニ，ヤマトオサガニが生息していた。しかし現在は柔らかい泥地がなくなり，そのような環境に生息するヤマトオサガニは見られなくなった。国土地理院令和3年3月5日発表の「特集・平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震から10年」によると，震災時30cm程度沈降したが，その後隆起が継続し，現在は震災前より高い状態と思われる。沿岸観測局の変動量の一覧（高さ）によると，蒲生干潟に近い利府観測局で本震前後で－29cm，その後隆起し，2021年2月の時点では＋2cmとなっている。土地が隆起することによって柔らかな泥地が消滅し，ヤマトオサガニが生息しなくなったのであろう。

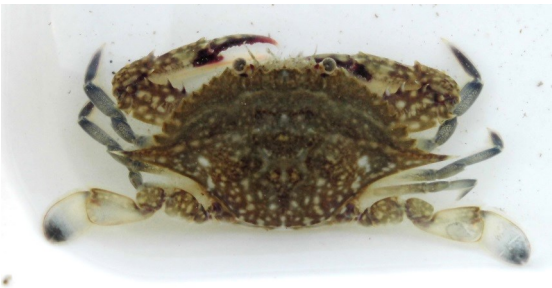
（Fig.1　七北田川河口）

潟湖内には多くのヤマトオサガニが生息している（Fig.2）。コメツキガニは干潟全域で見られ，堤防や転石のまわりにはケフサイソガニ（Fig.3）が，Fig.1の囲みや日和山下の湿地にはチゴガニが，ヨシ群落付近にはアシハラガニ（Fig.4）が生息している。導流堤の水門付近では甲幅3～4.5cmのガザミ（Fig.5）を3匹採集した。全て雄であった。

（Fig.2　ヤマトオサガニ）

（Fig.3　ケフサイソガニ）

（Fig.4　アシハラガニ）



（Fig.5　ガザミ）

（Fig.6　マハゼ）

■マハゼの確認

潟湖内でマハゼを採集した。全長6cm程度である。他のハゼ類と一緒に水門付近で採集した。また，全長5～9cmのマゴチを9匹採集した。

（佐藤　賢治）